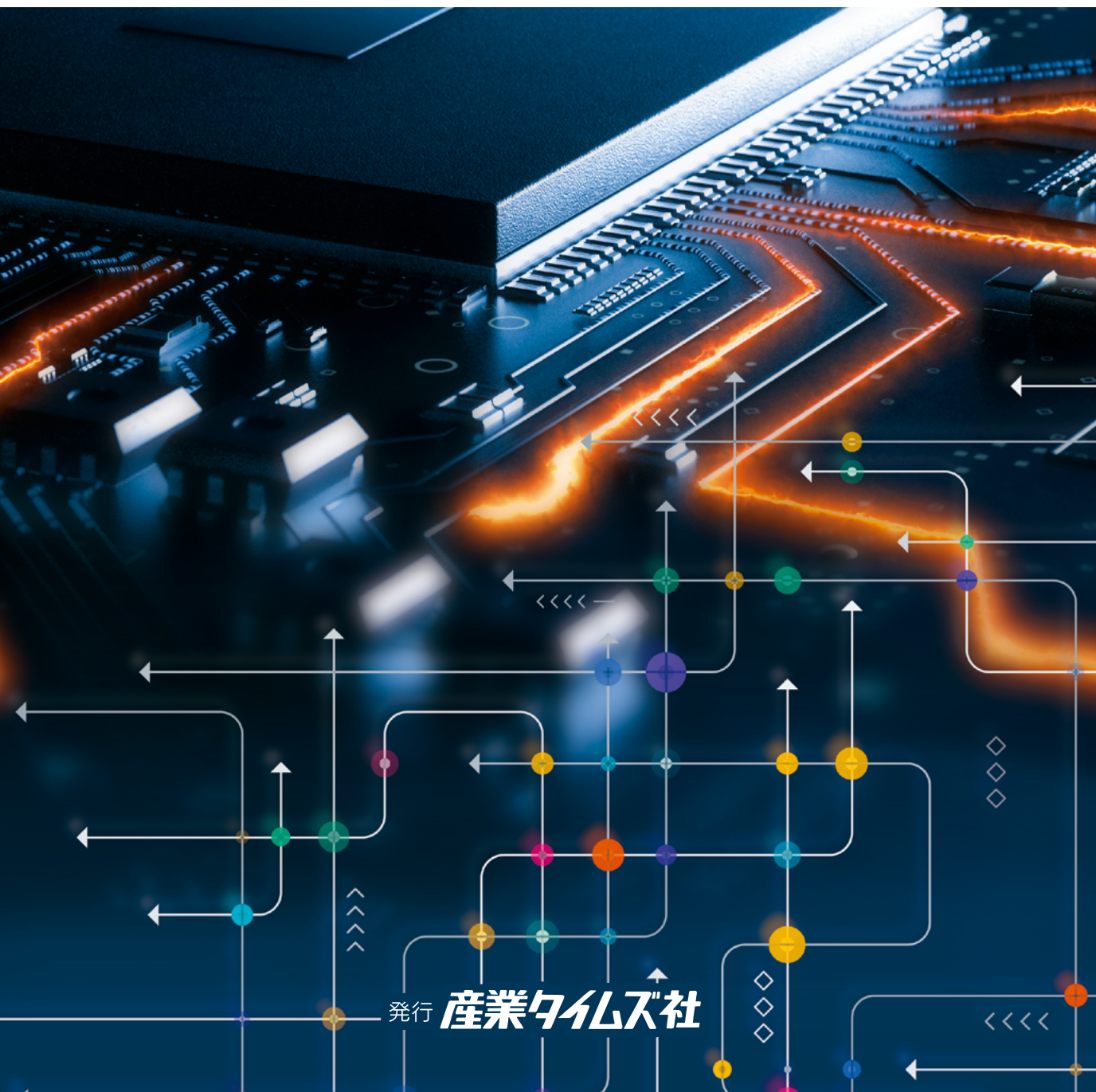


プリント回路メーカー 総覧 | 2026年度版

パラダイムシフトが起こる電子機器の心臓部



発行 産業タイムズ社

シライ電子工業(株)

〒520-2322 滋賀県野洲市南櫻1477-8 Tel.077-586-1333

【従業員】1266人 【社長】五藤 学 【資本金】9000万円 【設立】1970年1月
 【全社売上高】(連結) 23.3/328億6400万円 24.3/288億3300万円 25.3/293億3700万円 26.3予/280億円
 【製品と売上比】プリント配線板(両面・多層)96%、プリント基板外観検査装置など4%
 【プリント配線板売上比】96%
 【納入先】オムロン、デンソー、東芝、三菱電機、日亜化学工業など
 【生産拠点】三上、富波、守山、中国珠海

タイとインドを成長市場に位置づけ

両面板と4～6層の多層板を主力とするプリント基板メーカー。プリント基板のみならず、プリント基板外観検査機をはじめとしたソリューション事業も展開する。国内では、基板製造の三上、富波、太秦工場、切断・穴あけ加工の守山工場、生産管理センターと開発センターがあったが、2018年1月に稼働した三上工場の新棟に太秦工場の生産を移管した。海外では香港テックワイズサーキット社と中国清遠市に科恵白井(佛岡)電路有限公司があり、09年8月に海外で初めての独資工場である白井電子科技(珠海)有限公司を稼働させた。珠海工場はL/S=100/100 μ m、ビア径0.3mmクラスの両面と4～6層板を量産し、カーエレクトロニクス、家電向けなどを現地日系メーカーに供給している。国内外のOEM先も含めて最大月産50万 m^2 の供給体制を構築している。

珠海工場は09年の稼働以降、順次生産規模

を拡大し、月10万 m^2 規模の生産能力を持つ。カーエレクトロニクス向けを中心とした需要の増加に対応して19年に第2工場を建設し、21年に稼働した。延べ床面積1万7600 m^2 で、第1工場とほぼ同等の規模。新規設備の導入に加えて既存工場でも生産効率化を図ることで、トータルで生産能力を約20%増強した。以降の設備投資は自動化や合理化を行っているもようだ。

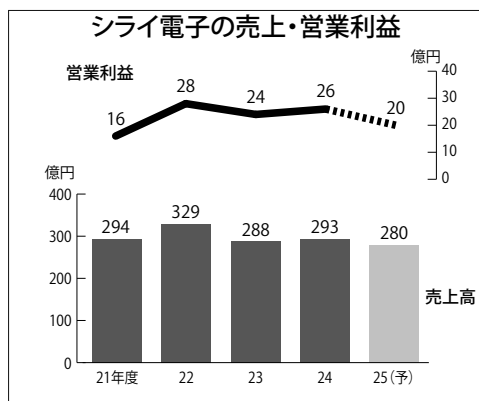
海外の営業拠点は中国とタイに置いているが、25年4月にインドに販売子会社を設立した。現地需要の拡大に対応する。また、タイを成長市場と位置づけ、現地企業とのアライアンス強化に向け人員を派遣するなど取り組みを推進している。

25年11月にはタイのプリント基板メーカー、WELL TEK社と業務提携した。基板の製造や販売において、両社のネットワークを活用していくとしている。

24年度はプラス成長達成も25年度は苦戦

シライ電子は近年、業績不振への対応のため20年度に経営陣を刷新するとともに組織の統廃合や業務改革、設備投資計画の見直し、希望退職者募集などの経営構造改革を進め、収益性改善を図った。

21、22年度は構造改革効果や市況の好調により業績は伸長した。一方、23年度はプリント基板の需要が減速して減収減益となった。24年度は売上高が前期比2%増の293億円、営業



LGイノテック

LG INNOTEK CO., LTD.

【URL】 <https://www.lginnotek.com/>

【生産品目】 高多層基板、半導体パッケージ基板、ビルドアップ、FPC、R-FPC

新ビジョンを発表

LGグループ傘下の部品専門メーカーのLGイノテックは、グローバル電装メーカーへのビジョンを打ち出した。その一環として、2030年に新事業（自動走行車向けセンサー、高付加価値基板）の割合を現状の15%から25%に引き上げることを目指す。モバイル向けカメラモジュールで業界No.1に加え、もう1つの業界No.1を創出することを目指す戦略だ。LGイノテックの文赫洙（ムン・ヒョクス）社長は同社の新工場を訪問した際に「未来に向けた事業が素早い速度で成長している。未来新事業の割合を30年には全体売上高の25%以上に高めて、もう1つのグローバルトップシェアを目指す」と強調した。

ソウル証券街では、同社の主力製品であるカメラモジュールを除いた事業の売上比率は15%以下（24年末基準）と試算しており、米国の取引先が売り上げの大半を占める偏った構造になっている。だが、モバイル向けカメラモジュール事業の成長が鈍化しており、事業ポートフォリオの多様化に向けて文氏は23年末の

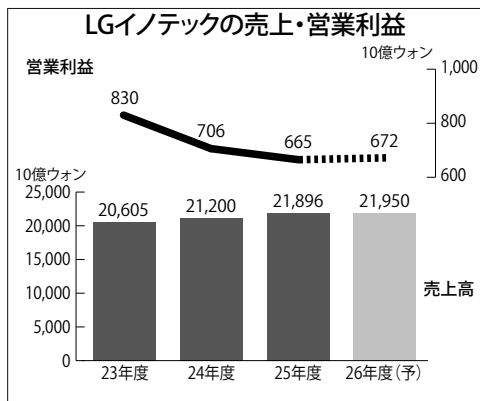
社長就任以降、新事業の拡大に注力している。

現状、LGイノテックが注力する新事業は、車載部品（センサー、通信、照明）や高付加価値基板（半導体、AI、通信向け）のほか、ロボットやUAM（都市航空交通システム）向けの製品などが挙げられる。特に24年に売上高が1兆9000億ウォンであった車載部品（センサー除く）を、30年までに売上高5兆ウォンにすることを目指す。また、1兆5000億ウォン規模の基板事業についても3兆ウォンまで拡大することを目指す。

文氏は社長就任後、車載センサー事業についてカメラだけでなく、LiDARやレーダーも製品群に追加し、モビリティセンシング市場を先駆ける「トータル・ソリューション・プロバイダー」戦略を標榜している。25年7月にはLiDAR専門メーカーのAeva Technologies（米カリフォルニア州）とモジュール供給契約（28年量産）を締結。また、25年9月にはレーダーを手がける韓国のスマートレイダーシステム（ソウル市江南区）に出資し、同社の株式4.9%を取得した。文氏は、30年に売上高5兆ウォンを提示した車載向け部品のうち、こうしたセンシングソリューションの事業規模を2兆ウォン規模に拡大することを目指す。そのほか、車載用アプリケーションプロセッサモジュールにも注力しており、従来の電装部品事業において車載半導体の領域にも取り組んでいく戦略だ。

亀尾にFCBGAラインを増設

LGイノテックは、パッケージ基板の増強投資も決めており、26年前半に慶尚北道亀尾で敷地を取得する見通しだ。増設するラインでは



応用電機(株)

〒610-0101 京都府城陽市平川中道表 63-1 Tel.0774-52-0001

【従業員】685人 【社長】茶屋 文成 【資本金】7221万2000円 【設立】1980年6月
【全社売上高】22.6/160億円 23.6/194億円 24.6/176億円 25.6/158億円 26.6予/180億円
【製品と売上比】プリント基板実装、検査装置、FA機器、電源などのEMS事業
【実装売上比】25%

【納入先】堀場製作所、村田製作所、ローム、平田機工、ソニーセミコンダクタ、ヤマハ発動機など

回路設計から部品調達、実装、検査を一貫して行っていることに加え、最終製品の製造も請け負う。基板実装は主に製造設備向けで、最終製品は半導体などの各種計測・検査装置、電源、搬送機器など多岐にわたる。イメージセンサー検査用光源装置など一部製品は自社ブランドで出荷している。特に計測技術が強みで、大手メーカー向けに計測・検査装置を多数納入している。生産は少量多品種に特化し、本社敷地内の京都工場と熊本工場（熊本県菊地市）、浜松工場（浜松市）、大和工場（神奈川県大和市）の4拠点で実装を手がける。基板サイズは最大で650×810mmに対応しており、テスター用のディスクリート基板では最大600×500mmの実装も可

能だ。また、最大で64層、板厚8mm、チップサイズは0.3×0.15mmにまで対応しており大型の厚い基板への高密度実装技術が特徴である。SMTラインは浜松3、京都・熊本・大和各2の計9ライン体制で全拠点とも窒素リフローを導入している。25年6月期には、熊本で1ラインを更新した。26年6月期は浜松で挿入実装用のはんだ付けロボットを導入し、外観検査装置を追加する。また神奈川でリールストッカーを導入してリール管理の省力化を図る。効果を見て他拠点へも展開する予定だ。

オオクマ電子(株)

〒861-8037 熊本県熊本市東区長嶺西 1-8-104 Tel.096-382-8110

【従業員】23人 【社長】大隈 恵治 【資本金】5000万円 【設立】1973年1月
【全社売上高】年間5億円前後
【製品と売上比】電子制御装置、コンピューター制御装置、省力化装置、配電装置、画像処理装置など
【実装売上比】

【納入先】オムロン、キューキ、ニデック、正興電機製作所、西部電気工業、東芝、ルネサスなど

19年10月、本社内に(株)MFCを設立（製造部門/分社化子会社）し、自動化・省力化機器製品を中心に技術の向上・設計の高度化・商品開発を展開。この関連でプリント基板実装から製品組立まで手がける。主な製品は、リードフレームカウンター、電子デバイスリード検査装置、生産ネットワークシステム、リレー検査装置、FPGA設計、電車接近表示器、パーインボードチェッカー、半導体特性試験装置、ハンドラーなど。新製品として、液晶表示装置（プログラム信号発生器）の「Graphical I/F OGI」シリーズを挙げている。設計部門では、電子検査機器・治具設計、アナログ・デジタル回路設計、ソフトウェア開発、FPGA設計、各種プリント基板設計・製作、生産

支援システムなどを手がけ、製造部門（1～3課）では製造部1課で各種プリント基板実装を行っており、そのメイン中心はパーインボードテスト基板。同2課では配電盤、各種ユニット、ハーネスなど、3課で板金加工を担当。基板は、設計・アセンブリー回路設計からパターン設計、基板実装まで一貫した生産体制を整えている。また、新事業企画推進室では、ハードからソフトウェアまであらゆる分野において、オリジナル製品の開発に当たっている。15年11月にオオクマ・ソリューション関西(株)設立（京都府）。17年10月に新本社完成。21年にはハーネス事業も立ち上げた。



書名プリント回路メーカー総覧 2026 年度版
体裁・頁数B5 判 336 頁
定価25,300 円 (税込)
発行2026 年 6 月 8 日